

認知症施策に関する説明会（関東信越厚生局）

日 時：令和7年1月17日（金）14時30分～16時45分

会 場：さいたま新都心合同庁舎1号館7階 第1会議室

開催方法：対面およびオンライン（Zoomウェビナー）

参加人数：255名

参加対象：都道府県および地区町村

行政説明：「認知症施策の動向」

厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課 江川 斉宏 課長補佐

講 演：「認知症施策推進基本計画の論点とこれからの認知症施策について」

社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター 栗田 主一 センター長

質疑応答：江川補佐および栗田センター長への質問意見交換

- 「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」に基づく国の認知症施策の基本計画（認知症施策推進基本計画）が令和6年12月3日に閣議決定をしたことを踏まえ、認知症施策に関する説明会を開催しました。
- 参加者からは「推進計画は既存の計画と一体的に柔軟に、各自治体の特性に合わせて考えていけばいい。質疑応答の時間で他県・他市町村の現状も感じられた。」「栗田先生から国の議論のポイントをお話いただき、理解が深まった。」といった感想をいただき、共生社会へ向けて認知症の方への支援をそれぞれの立場で考えていただくきっかけになったと思います。
- 自治体の計画策定は努力義務となっていますが、多くの自治体で計画の策定を検討しており、今回の説明会は計画策定に向けての自治体支援になりました。

～アンケート結果～

アンケート回収率：25.4%

1. アンケート回答者の内訳

市区町村	60件
都県	5件
計	65件

2. 本日の研修は参考になりましたか。

①参考になった	②参考にならなかった	③特になし
65	0	0



3. 今回の説明会で特に参考になった、気が付いた点について教えてください。

<計画策定について>

- 計画策定について、地域の実情に応じて単独の計画でなくてもよいということがわかり、今後も高齢者保健福祉計画のなかに、認知症施策を盛り込んだ事業実施、目標設定を進めたいと思った。
- 市町村介護保険計画の位置づけや計画策定のプロセス、介護保険事業計画との兼ね合い等、疑問点が解消された。

<認知症ご本人やご家族の声を聞くことについて>

- 認知症ご本人やご家族の声を聞くことについて、項目を決めるのではなく対話を通して、また、内容を記述として残すことが大切であることが参考になった。声を聞く場の設定や、その声を計画にどう反映させていくかを今後市で具体的に検討していきたい。
- 当事者からの意見を聴取するにはどのようにしたらよいかという質問があったところで、栗田先生から、御一人よりも複数の方からお聴きする方が、本音を聴くことができ効果的というアドバイスがありました。大変勉強になりました。
- 認知症施策推進計画を作成するにあたり、当事者の意見を聞くことが大切なこと。しかし、協力してもらえる当事者を見つけることの難しさも感じました。

<新しい認知症観について>

- 新しい認知症観で施策を進めていかなければならないこと。
市町村計画に向けての進め方。
- 認知症施策推進大綱と認知症基本法及び基本計画の違いについて知ることができて良かった。その他、新しい認知症観など、具体的にわかりやすく説明していただき、勉強になった。

<その他>

- 「共生」と「予防」についての今後の考え方について理解を深めることができました。
- 厚労省の説明において、事業概要だけでなく、認知症の種類や原因疾患、症状の説明があり分かりやすかった。
栗田先生の講義内容において「公衆衛生の問題」「人権の問題」の認知症に対する2つの政策的な視点は初めて聞いたため勉強になった。
- 統計データに基き、これまでの変遷やその原因、今後の見込みについて学ぶことができました。



←質疑応答の様子

4. 今後も認知症施策に関する研修会を開催したいと考えています。ご希望のテーマを教えてください。

<基本計画について>

- 認知症基本法や基本計画を市民に伝える視点等
- 様々な市町村計画の取組みなどの事例報告
- 10期計画策定時に認知症施策を取り入れることで、認知症施策推進計画とするためのポイントについて
- 当村は小さい村であり、事業担当を兼務していることもありなかなか整備する事案に対して時間がかかります。努力義務から義務になり準備しなくてはいけないことがありましたら、研修していただけると助かります。

<手引きについて>

- 市町村の認知症計画の手引きが出た段階で、その説明会・質疑応答の機会を設けていただけるとありがたいと感じる。
- 認知症施策推進計画の策定に関する注意事項を手引きをもとに解説していただけるとありがたいです。

<チームオレンジなど>

- チームオレンジや本人ミーティングの事例共有。若年性認知症の方も含めた事業展開の事例。計画の手引きやアウトカム指標に関する説明会。
- 「認知症サポーターの活用」を課題に感じています。生活支援体制整備事業と連携し、対応しているような自治体の成功事例や、具体的な展開方法をお教えいただきたいです。
- 認知症当事者と一緒におこなう認知症サポーター養成講座を聞いてみたい。
- チームオレンジコーディネーターについて

<本人ミーティングなど>

- 本人ミーティングやチームオレンジについて、声を上げてくれる本人とどう関わりを始めたのかなど。
- 山梨県では家族会の高齢化など活動低下衰退が進んでいると思われる。都市圏でないこともあり、地域にまだ認知症を隠していたい風土が感じられる。本人大使など意識が高い方は到底小さな市町村では声がかけにくいこともある。
地方の小さな県へが本人支援に前向きになれるような研修会を開催してもらいたい。
- 本人ミーティングの効果的な進め方

<MCIの方の社会参加および就労について>

- 若年性認知症に対する就労部門との連携や、産業医との連携や産業保健分野への周知・啓発について(今回、栗田先生から労働安全衛生法が出たためその点も含めてお聴きしてみたいです)
- 軽度認知症の社会参加や就労を可能にしている環境(雇用・就労)や人的支援体制の先進事例、制度上の支援策など

- 就労支援や有償ボランティアについて、具体的に実行可能なレベルでの、成功事例の共有や制度的・法的ポイントの解説や説明をいただけると有難いです。
- 認知症当事者を雇用するにあたっての企業との連携方法や、事例の紹介。コーディネーターへの依存だけではなく、制度として用意いただけるものがあるなら、その説明会があるとよい。

＜その他＞

- MCIの方をいかに健常に移行できるかが重要になってくると思うので、MCIの方に重点を置いた施策の策定について知りたい。
- 行方不明者対策
- 都道府県間・区市町村間の意見交換
- 認知症地域支援推進員や初期集中支援チームの活動状況等について、他自治体のことが分かるとよいです。市区町村単位で、すでに試作計画を策定しているところがあれば、その事例を紹介してもらえると大変参考になります。
- 横のつながり(高齢者関係と障害関係、農福連携、医療関係等)の好事例を交えた研修等聞きたいです

5. その他

要望等ございましたらご記入ください。

- 盛りだくさんの研修でしたが大変勉強になりました。今後も新しい情報等いただけたらと思います。
- とても勉強になる説明会でした。今後本人の声を広げられる仕組みづくりに取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。
- 講義はもちろんですが、質疑応答の栗田さん、江川課長補佐の返答も大変参考になりました。地域課題は地域で考えていく側面もありますが、地域も行政もマンパワー不足で疲弊しています(今年度中堅職員が何人も休職・離職しています)。都会と違い地域のためにと動ける住民も母数が少ないため、できる方が1人で何役もこなす現状です。認知症施策について、国・県レベルで方向性をお伺いできる、このような場が本当に有難いです。引き続きよろしくお願いいたします。
- 認知症の本人同志の話し合える場において、どのように計らいをしたらよいか悩んでいます。また、認知症と診断された直後の方々に対してのサポートをスムーズにするために行うため研修・診断に至らないが認知症状のある方へのサポートについての研修 地域住民全体に正しい知識の普及が行えればよいのだと思いますが、難しく感じています。